

令和4年度第1回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和4年7月16日(土) 午前10時～11時45分

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

(委員) 押樋委員長 西村副委員長 遠藤委員 沼委員 梨本委員 高橋委員
松本委員 館委員 澁谷委員 堀内委員

(事務局) 生涯学習部長 生涯学習部次長 こども図書館準備室長
中央図書館長 中央図書館副館長 総務係長 図書サービス係長
レファレンスサービス係長 総務係司書

4 傍聴人 2人

5 議題

報告事項

- (1) 令和3年度利用統計及び事業報告について
- (2) 令和4年度図書館自己点検評価について
- (3) 令和4年度当初予算について
- (4) (仮称)浦安市子ども図書館について

協議事項

- (1) 電子書籍導入の方向性について(まとめ)

6 議事の概要

報告事項

- (1) 令和4年度利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
- (2) 令和4年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- (3) 令和4年度当初予算について、事務局より報告を行った。
- (4) (仮称)浦安市子ども図書館について、事務局より報告を行った。

協議事項

- (1) 電子書籍導入の方向性について、協議を行った。

7 会議経過

報告事項

- (1) 令和4年度利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

- (質問) 児童サービスで実施した「としょかん絵本セット」は何歳を想定して行ったのか。
- (回答) 乳幼児向け、2～3歳向け、4～5歳向けに分けて行った。
- (意見) 乳幼児だけでなく、小中学生向けや大人に薦める絵本と対象を広げるのも良いと思う。
- (回答) コロナ禍で図書館への来館が制限されている時に実施したもので、絵本だけでなくよみもののセットでも行った。
- (意見) 今後も継続して行うことも検討してほしい。
- (質問) 他自治体の図書館にあるようなヤングアダルト (YA) コーナーはないのか。
- (回答) 浦安市では設けていない。その世代は大人向け、子ども向けのどちらの図書も利用する。コーナーを作っただけとにならないよう、サービスをどう展開するか検討していきたい。
- (意見) 乳幼児向けサービスは充実しているが、YA向けのサービスは全国でもしっかりと取り組んでいる図書館がない。
- (意見) 大人が見ても面白い絵本も多い。高齢者に薦める絵本セットを作るのも良いのではないか。
- (意見) 司書個人の名前を前面に出し、選書をアピールするのも良い。浦安市の図書館のレベルを見せてほしい。
- (意見) YAコーナーはもともと江東区の図書館が日本で最初に本格的に始めたもので、今新しく図書館を作る際には何らかのコーナーを作ることが多いが内容が伴っていない。どんな本を選ぶか、選んだ本が10年後も需要があるかなど選書が重要である。若い人が集う場所が必要だが、コーナーをどう維持するかが課題となる。
- (質問) YAというものの定義は何か。
- (意見) 一般的には中高生あるいはティーンを指す場合が多い。
- (意見) その世代が本と離れるとなぜいけないのか、なぜ本を読まなくなったのかを分析しないと、コーナーだけを置いても意味がない。
- (意見) いきなり本を読まなくなるわけではない。小さい頃は絵本からスタートするが、YA世代となって急に挿絵がない本に移行する。ここをどう乗り越えるか、学校だけでも、家庭だけでも難しい。図書館の力を借りる必要があるのではないか。
- (意見) 学校図書館との連携は難しいが、子どもが本を読まないことに学校図書館も悩んでいると思う。
- (意見) 本を使って知る喜びというものもある。本を読むことにだけ焦点を当てることは疑問である。
- (意見) 学校から分館に訪れるなど、本に触れる環境を作ることが大事ではないか。
- (意見) 利用統計が把握しづらい。前年比よりもコロナの影響を受ける前、あるいは数年間の推移で示すほうがわかりやすいと思われる。
- (回答) コロナの影響を受ける前は大規模改修事業もあり、開館時間や人員体制などの条件が異なるため平成29年度の数字との比較となることから、今回は前年度と比較したが、報告の仕方については検討したい。

(意見) 前例に倣うだけでなく、数字の見せ方やアピールの仕方を研究してほしい。

(意見) 会議の場で資料を投影するなど手段を工夫してもらいたい。また、事前資料の送付も紙のみでなくデータでの送付も検討してほしい。

(2) 令和4年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。

意見(質問)はなし。

(3) 令和4年度当初予算について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(意見) 集会事業や研修は外部講師ではなく、図書館職員が講師を務めることも検討してほしい。人前で話すことはいい勉強となる。

(意見) 日本図書館協会からの退会は残念である。同協会は公共図書館だけでなく日本中の図書館と個人の会費で運営されている。日本全体の図書館の底上げとなる場であり、浦安市の退会による影響を心配している。来年度以降の予算確保に努力してほしい。

(回答) 市全体の予算編成方針の中で負担金についても見直した結果である。

(質問) 退会による影響として研修が受けられなくなるとの説明だが、人材育成に関わる問題であると思う。図書館サービスの質の低下を招くのではないかと懸念する。

(回答) 千葉県立図書館が主催する研修など、負担金を要しない研修へはこれまで通り参加するため、質の低下とはならないと考える。人材育成は何年もかけて行い蓄積するものであり、サービスはきちんと維持していく。一方で自己研鑽による研修の受講、職員が講師となる研修や講座の実施にも取り組んでいる。

(4) (仮称)浦安市子ども図書館について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(質問) 今回のまとめはホームページに掲載するのか。

(回答) いただいた意見は、今後実施する修正設計の中で図書館とも調整しながら参考にしていく。

(意見) 館長の諮問機関であるので、子ども図書館の件については、図書館協議会としても応援していきたい。

(意見) 学校へのアンケートにより子どもの意見が取り入れられることはありがたい。結果をフィードバックしてほしい。

協議事項

(1) 電子書籍導入の方向性について、協議会の意見としてまとめるため協議を行った。その際に表明された意見は次のとおり。

(意見) コンテンツの数量が近年は数十万点とかなり多くなったと聞いているが、まとめの項目の記載内容について齟齬がないのか確認したい。

(意見) 電子書籍のコンテンツ数は丸善雄松堂で8万、紀伊國屋書店で2万8千タイトルだが、ほとんどは学術書である。他の事業者を見ても、公共図書館向けコンテンツは5万5千～9万2千タイトルほどである。

(意見) 「公共図書館向け」という文言を追記してはどうか。

(意見) そのように追記するのがよいと考える。

(意見) これまで図書館が作成した参考資料を、協議会のまとめに添付するのがよいのではないか。

その他

以下のような意見（質問）があった。

(質問) 外国人を案内する機会があったが、外国人向けの案内はないのか。

(回答) 複数の言語に対応した利用案内を中央カウンターで用意している。また、外国語資料は書庫棟に置いている。一部は分館でも提供している。

(質問) 読書会の会員募集ポスターの掲示をお願いしたが、誰も気がつかない。掲示方法を工夫するなど協力してほしい。

(回答) 目を引くように掲示する方法を工夫しているが、さらに改善できないか確認する。また、以前は図書館の主催事業などで各団体をアピールする場があったが、コロナ禍で開催の機会が少なくなっていることもある。

(意見) 掲示する場所は限られるので、優先順位や期間などルールを定めておいたほうがよい。

以上